

—  
(金)

## 祈りの祭壇を築いて

出エジプト記三〇章

また夕暮れに灯をともしるときにもたきなさい。これはあなたがたが代々にわたって主の前でたく日ごとの香の供え物である。(8)

ここでは香をたく祭壇を造るようにと命じられています。大祭司アロンの大切な務めの一つは、祭壇の上で香ばしい薫香をたくことでした。朝ごとに夕ごとに、代々絶やさずことなく香をたくように命じられました。主の前にたかれるこの香は、主にささげる祈りの象徴です。祭司たちが朝に夕に香の煙を立ちのぼらせたように、私たちも朝に夕に、主のみに祈りをささげることを主は求めておられます。朝に夕にとは、いつも何か主に願う事をするようにという勧めではありません。ある聖徒は、「祈りとは、神の臨在を意識することにほかならない」と述べています。祈りを絶やさないということは、私たちが常に主のご臨在の中に生きるようにといい勧めです。キリスト者は、どんなときにも主と共に生きる者たちだからです。今日一日も、主の臨在を覚えつつ過ごそうではありませんか。